

会長報告

2023-24年度会長 高瀬 幸一郎

安行英文ガバナーの【変化を導く】問いかけである Be「どうあるべきか」、Know「自分の強みを知っているか」、Do「何をすべきか」を強く意識しながら、考えながらの1年でした。特に会長の時間の内容に持てる力の大部分を注ぎました。改めてロータリーと職業人との強い結びつきを再認識した次第です。「利己、利他ともに大切にすること」をいろんな角度から発信させていただいたことは、楽しかったです。

【具体的な行動】の振り返り

1、例会の充実（さらに上質な空間になるように工夫）

適度な緊張感と雰囲気は保てたのではないかと
会員に今週も来てよかったと思えていただけたかと
感謝を奉仕にかえる「ニコニコ」の増収は素晴らしいこと
メイクアップの奨励をもっとすべきであったと反省

2、例会時の会員全員卓話の実施

一部会員にご負担をお掛けしましたが、概ね好評
自らの生業を再認識する機会であったのでは
若い会員のプレゼン力は見習うべきものあり
職業とロータリーをさらに結び付けられると更によし

3、DEIを根付かすための正しい理解、行動

インクルージョン（誰もが活躍できる状態）が一番大切
その結果ダイバシティ（多様性）が生まれる。

4、補助金事業

測定はできないが、価値ある事業ができたと確信
動員、広報活動に課題あり（働き方改革がネック）
働き方改革の影響で講演会に来ていただく人のコスト、時間を配慮しなければならない難しさを痛感

5、その他

若い会員の活躍が目立った年であった。ベテラン会員は若い人を温かく見守る感がすごくバランスが取れていたように感じる
休会者が復帰していただけないだけでなく、退会されたことは残念でならない
まず、体調不良以外での休会者を出さないようにすることが大切
できなかったのにいうのはばかれるが、人材確保、増員が急務